



滋賀銀行 常務取締役本店営業部長

見玉 伸一

景気動向は、新聞報道にも見られるように回復傾向にあるものの、先の小泉政権時代の「いざなぎ景気」超えが話題となった当時同様、「実感なき景気回復」といった感じで、多くの中小企業には依然厳しい状況であります。今後のアベノミクス政策の伸展に期待するところ大であり

ますが、リーマン危機により信用膨張をテコにした米国の繁栄が転機を迎え、新たな成長モデルへの転化を迫られたように、少子高齢化に伴い日本も“拡大ありき”ということから縮小を前提とした事業の再構築が求められているものと思えます。

企業経営は、とすれば短期的な課題や目先の利益に捉われがちです。前提が大きく変化している今日においては、短期的な目標の達成が長期的な課題解決に繋がらず、そのことが「焦り」や「不安」「不透明感」を助長しているように思えます。

例えば「短期的課題」と「長期的課題」、あるいは「売上増強」と「利益拡大」

二兎を追う

といった、今日的には相反する課題を同時並行で達成するという、まさに「二兎を追う」ことが生き残りの条件と考えます。そのためには①事業の存在意義の確認 ②明快でシンプルな戦略③スピード感ある機動力④過去の経験に頼らない洞察力 ⑤マクロとミクロ双方での判断力の5つの取り組みが事業再構築の要点になるものと思います。

当行も地元金融機関として、「二兎を追う」という課題解決のために、お取引先企業のよき相談相手となれるよう精進してまいります。今後ともご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

県内データ あれこれ

滋賀県は全国第17位

性能の向上により、さらなる普及拡大を見込む

このほど一般社団法人全国軽自動車協会連合会から発表された「2013年3月末現在 軽三・軽四輪車保有台数」から軽自動車の中の乗用車の保有台数をみると、滋賀県は293,642台で、1世帯あたりの普及台数は0.55台となった。これは、近隣の福井県(0.66台)や岐阜県(0.57台)を下回るものの、全国平均の0.35台を上回り、全国で第17位だった。

一方、直近7月の新車販売台数をみると前年同月比▲0.6%と減少しているものの、2,340台と高水準を維持しており、軽乗用車の販売は引き続き好

調といえよう。

軽乗用車は小型乗用車に比べ購入価格や税金が安く、燃費が良いなど、経済性に優れた点が人気だ。また最近では、衝突回避システムの搭載や室内スペースの拡大など、小型乗用車に迫る性能の向上が消費者の心をつかんでいると思われる。今後、消費税率引き上げ前の駆け込み需要も見込まれるなか、個人消費を牽引し、県内景気の本格的な回復につながっていくのか、引き続き軽乗用車の販売動向を注目したい。

(株)しがぎん経済文化センター 上村 彰吾

軽乗用車の1世帯あたり普及台数

順位	都道府県名	軽乗用車保有台数	世帯数	1世帯あたりの台数
1	佐賀	218,552	316,884	0.69
2	沖縄	393,639	587,569	0.67
3	福井	183,321	277,220	0.66
⋮				
11	岐阜	438,419	765,098	0.57
⋮				
17	滋賀	293,642	531,214	0.55
18	和歌山	238,763	433,720	0.55
⋮				
20	三重	406,700	742,426	0.55
⋮				
37	奈良	225,738	568,655	0.40
⋮				
41	兵庫	680,007	2,402,035	0.28
42	京都	316,182	1,141,157	0.28
⋮				
45	大阪	702,357	3,990,017	0.18
⋮				
47	東京	423,180	6,452,253	0.07
	全国	19,347,873	54,594,744	0.35

軽乗用車保有台数：一般社団法人全国軽自動車協会連合会
世帯数：総務省「住民基本台帳世帯数(外国人世帯数を含みます)」